

ILOHA

ILOHA126 感染症法 復習問題解説

2018年2月19日

加瀬先生の講義に関して、復習問題を作りました。必ずしも講義中に説明していないものも含まれます。

なお、本問題は金子の責任で作成しております。

1. 感染症法における医師の責務として正しいのはどれか。2つ選べ。
 - a 二類感染症は状況により入院勧告する必要がある。
 - b 疑似症例や無症状病原体保有者は届け出る必要がない。
 - c 四類感染症は直ちに最寄りの保健所に届け出る必要がある。
 - d 三類感染症は必ず入院勧告する必要がある。
 - e 学校の出席停止期間を患者に説明しなければならない。

解答

a,c

解説

疑似症例や無症状病原体保有者でも届出が必要な感染症もある。

三類感染症以降は必ずしも入院が必要ではない。

学校の出席停止期間は、感染症には定められていない。

2. 感染症法における特定病原体等について正しいのはどれか。2つ選べ。
 - a 一種から四種に分類されており、数字が大きいほど危険性が高い病原体である。
 - b 耐性のない結核菌は、四種病原体に定められている。
 - c 特定病原体等の「等」とは、ウイルスを指している。

- d 二種病原体は、所持に厚生労働大臣の許可が必要である。
- e ボツリヌス毒素は滅菌しても二種病原体として扱う。

解答

b,d

解説

数字が小さいほど危険である。ちなみに、BSLは数字が大きいほど危険。

多剤耐性結核も、超多剤耐性でなければ四種である。超多剤耐性結核は三種。

「等」は、ボツリヌス毒素等の毒素である。

ボツリヌス毒素は、二種であるが、加熱によって不活化するため、特定病原体等には含まれない。

3. 感染症法に定められている感染症と病原体の組み合わせとして誤っているのはどれか。
 - a 発疹チフス—チフス菌 (*Salmonella Typhi*)
 - b クロイツフェルト・ヤコブ病—プリオン
 - c 急性灰白髄炎—ポリオウイルス
 - d パラチフス—パラチフス菌 (*Salmonella Paratyphi A*)
 - e インフルエンザ—インフルエンザウイルス

解答

a

解説

発疹チフスの原因菌は、*Rickettsia prowazekii* である。チフス菌は、腸チフスの原因。引っ掛け問題。



4. インフルエンザについて正しいのはどれか。2つ選べ。
- a H1N1pdm2009 によるインフルエンザは、現在季節性インフルエンザとして扱われている。
 - b B型インフルエンザウイルスは、亜型が144種類知られている。
 - c インフルエンザウイルスはモノネガウイルスである。
 - d 鳥インフルエンザ H7N9 は2類感染症に定められている。
 - e アマンタジンは、A型、B型インフルエンザの双方に有効である。

解答

a,d

解説

B型は亜型がない。A型はHが16まで、Nが9まであり、組み合わせにより144種類の亜型がある。

アマンタジンは、Aのみに有効。

5. インフルエンザワクチンについて誤っているものはどれか。2つ選べ。
- a ノイラミニダーゼを抗原に用いている。
 - b 成人は、通常1回の接種でよい。
 - c 皮下接種が原則である。
 - d 流行のピークに接種を推奨する。
 - e 授乳中でも接種可能である。

解答

a,d

解説

ヘマグルチニンを抗原に用いている。

流行前に接種を推奨する。

大阪市立大学大学院医学研究科 細菌学

<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/bacteriology/>

